

## ロボテック戦略月次レター（2022年5月の振り返り）

# 企業業績には概ね底堅さ

年初来で厳しい市場環境続くが、1-3月期には当戦略の組入れ銘柄の約80%で予想を上回る売上成長を記録

5月のグローバル株式市場（MSCI ACWI、米ドルベース）は引き続き変動の大きい展開となり、月の前半は下落しましたが、月末に向けて回復し、月を通しては小幅な上昇となりました。エネルギー価格高騰による消費の低迷が懸念される中、年初からの厳しい市場環境が続いています。当戦



エネルギー価格高騰やサプライチェーン問題が企業経営に引き続き大きな影響を与えていますが、当戦略の組入れ企業は全般的には効率的に事業を展開しています。

略は、市場全体を小幅ながら下回るパフォーマンスとなりました。当月は、主として米国の保有銘柄の株価が下落したことがマイナス寄与となり基準価額は下落しました。

### 地政学リスクとエネルギー価格高騰の影響続く

当月も、ウクライナ情勢をめぐる地政学リスクとエネルギー価格高騰が市場のセンチメントに影響を及ぼし続けました。エネルギー価格高騰により可処分所得が減り、個人消費の低迷とともに景気が減速する懸念が次第に強まっています。米連邦制度準備理事会(FRB)は、コロナ禍で大幅に引き下げた政策金利の正常化プロセスに着手し、5月初めに通常の2倍の幅である0.5%の利上げに踏み切りました。市場参加者は、景気減速の兆しが見える中、今後の利上げペースの加速に神経質になっています。しかしながら、各国政府は物価が消費に与える影響に機敏に対応し、多くの国で家計を支えるための措置が発表されています。

サプライチェーンの混乱が続く中、中国の大都市におけるロックダウンにより状況が一層複雑になっていますが、5月末に発表された中国の製造業購買担当者景気指数（PMI）は予想を上回り、企業は想定以上にこの困難な状況にうまく対応している模様です。なお、上海のロックダウンは6月から解除され、経済活動が徐々に回復しています。

## サプライチェーン問題など困難な状況下でも企業は効率的に事業を展開

当月も1-3月期の決算発表が続きましたが、企業業績は概ね良好で、当戦略の組入れ銘柄の約80%が予想を上回る売上成長、約70%が予想を上回る利益を発表しています（出所：ブルームバーグ）。企業の多くは引き続きサプライチェーン問題や部品不足に加え、原材料コストの高騰についても言及しており、中には収益が圧迫されていると報告する企業もありましたが、全般的には困難な状況の中でも企業は効率的に事業を展開しています。

なお、不透明な市場環境下、ヘルスケアセクターは安定的な需要が見込めるためディフェンシブな性質を有しており、新型コロナで延期されていた手術などの需要も回復しつつあるため、堅調を維持すると予想しています。手術支援ロボット大手のインテュイティブ・サージカルは、1~3月期決算発表で経営陣が慎重な業績見通しを発表したこともあり株価が低迷していますが、昨年的大幅な株価高騰の反動という面もあります。同社の収益動向および主力手術支援ロボットであるダビンチシステムの設置台数は堅調に推移しています。

## ポートフォリオの動向

プロセスオートメーションに注力する米国ソフトウェア企業のアスペン・テクノロジーは年初から堅調に推移しており、当月もプラス寄与となりました。同社は昨年10月、電子・電気機器、ソフトウェア製造大手のエマソン・エレクトリックからソフトウェア事業の一部を合併させ再上場させる提案を受け、合併は5月に完了しました。合併企業は、より幅広い製品ラインアップを顧客に提供できると同時にエマソン社が大株主となったことで強力な財務基盤を享受することができます。

当月は、年初から軟調なパフォーマンスが続いていた半導体関連銘柄が反発し、アドバンスト・マイクロ・デバイセス(AMD)、オン・セミコンダクター、マイクロチップ・テクノロジー、NXPセミコンダクター、シリコン・ラボラトリーズなどの銘柄がプラス寄与となりました。運用チームでは、現在の半導体供給不足などの問題について認識してはいるものの、半導体の重要なエンド市場の多くは堅調さを保っており、また半導体企業のバリュエーションも魅力的な水準にあると見ています。

## アクサIM、資産運用研究所を設立

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）はこのたび、資産運用研究所を設立いたしました。当社のリサーチチームおよび運用チームの専門家が集結し、お客様がより多くの情報に基づいて投資判断を行えるようにサポートいたします。資産運用研究所において、市場やマクロイベントに関するタイムリーな洞察や、長期および未来トレンドについての見解にアクセスできます。今回、資産運用研究所の設立に当たり、専門家が現在の地政学的環境がネットゼロへの競争にどのような影響を及ぼすのかを分析し、それが投資家にとって意味することを検証しています。ぜひ、[こちら](#)からご覧ください。

ディスクレーマー

### アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2022年3月末時点で約8,840億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2021年12月末時点で5,630億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

2021年12月末時点で、アクサIMは18カ国28拠点において2,400名超の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

### 投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はおお客様の負担となります。

#### 【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

**アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社**

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-25899